

毎年1月23日は“算額文化を広める日”

奈良東大寺に算数・数学の発展の願いをこめた 「算額」を2016年も奉納いたします



2016年東大寺算額イメージ

公益財団法人日本数学検定協会（所在地：東京都台東区、理事長：清水 静海）は、2016年1月23日（土）に数学の額「算額」を、華嚴宗大本山「東大寺」（奈良県奈良市）に奉納いたします。

特設サイト「算額1・2・3」

<http://www.sangaku123.jp/>

算額とは、江戸時代の日本で、数学者や一般庶民の数学愛好家たちが額や絵馬に数学の問題や解法を記して、神社や仏閣に奉納しあつた歴史あるものです。

この試みは、当協会の理念でもある「算数・数学への興味喚起」を広く国民のみなさまに促すための活動の一環として、算額という古来先人たちが取り組んだ「数学の学びの文化」を現代に復興し、日本の数学文化推進の礎にしたいという想いから企画立案いたしました。また本企画は「算数・数学に興味をもっていただく機会の増進」「算数・数学を通じた人々の交流の活性化」などを目的としています。

当協会が算額を東大寺に奉納するのは今年2015年1月に引き続き2回めで、今回奉納する算額（たて68cm×よこ56cm 2体、たて68cm×よこ118cm 1体。いずれも杉材）は、寺院ならではの問題を2問作

成し制作しました。具体的には大仏様と東海道五十三次をからめた問題と、東大寺に収蔵されている絵巻「華嚴五十五所絵巻（けごんごじゅうごしよえまき）」から派生した図形の問題で、2016年1月23日（土）に執り行う奉納式典で一般に初めて公開いたします。なお、当協会は、毎年1月23日を「算額文化を広める日」と定め、継続的に問題を発表していく予定です（特設サイト <http://www.sangaku123.jp/> に公開予定）。

当協会は、主たる公益事業である「実用数学技能検定（算数検定・数学検定）」「ビジネス数学検定」の実施のほかに、今後も広く国民のみなさまに算数・数学を学習する大切さや、楽しさを伝える普及啓発事業を充実させていく所存です。

【奉納式典概要】

名 称：東大寺 算額奉納式典

主 催：公益財団法人 日本数学検定協会

協 力：華嚴宗大本山 東大寺

算 額 制 作：株式会社アストラカン、天法株式会社

開 催 日：2016年1月23日（土） 9：30～10：30

開 催 場 所：華嚴宗大本山 東大寺 大仏殿 金堂（奈良県奈良市雑司町 406-1）

【プログラム】

9：30～10：00 奉納式典

- ・ 盧舎那仏（大仏）礼拝
- ・ 挨拶（公益財団法人 日本数学検定協会 理事長：清水静海）
- ・ 挨拶（華嚴宗大本山 東大寺関係者）
- ・ 算額奉納についての概要説明
- ・ 2015年算額問題 最優秀解答者紹介
- ・ 算額披露（奉納）
- ・ 写真撮影

10：00～10：30 質疑応答受付

※プログラム内容は当日変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。

【実用数学技能検定について】

「実用数学技能検定」（後援＝文部科学省）は、数学・算数の実用的な技能（計算・作図・表現・測定・整理・統計・証明）を測る検定で、公益財団法人日本数学検定協会が実施している全国レベルの実力・絶対評価システムです。おもに、数学領域である1級から5級までを「数学検定」と呼び、算数領域である6級から11級、かず・かたち検定までを「算数検定」と呼びます。第1回を実施した1992年には5,500人だった受検者数は、2006年以降は年間30万人を超え、実用数学技能検定を実施する学校や教育機関も16,000団体を超えました。以来、累計受検者数は450万人を突破しており、いまや数学・算数に関する検定のスタンダードとして進学・就職に必須の検定となっています。日本国内はもちろん、フィリピンやカンボジア、インドネシア、タイなどでも実施され（過去5年間でのべ20,000人以上）、海外でも高い評価を得ています。

※受検者数・実施校数はのべ数です。

【ビジネス数学検定について】

「ビジネス数学検定」は、ビジネスの現場で必要となる実用的な数学力・数学技能を測定する検定です。実務に即した数学力を5つの力（把握力・分析力・選択力・予測力・表現力）に分類し、ビジネスのシチュエーションを想定した問題で、これらの力の習熟度を測定します。インターネット上で受検できるWBT（Web Based Testing）方式を採用。2006年に第1回を実施し、現在では企業の採用試験や新人研修、管理職登用試験などに活用する事例も増加しています。

【法人概要】

法人名：公益財団法人 日本数学検定協会

所在地：〒110-0005 東京都台東区上野5-1-1 文昌堂ビル6階

理事長：清水静海（帝京大学教育学部初等教育学科長・教授、公益社団法人日本数学教育学会名誉会長）

会長：甘利俊一（理化学研究所脳科学総合研究センター 特別顧問、東京大学名誉教授）

設立：1999年7月15日

事業内容：（1）数学に関する技能検定の実施、技能度の顕彰及びその証明書の発行

（2）ビジネスにおける数学の検定及び研修等の実施

（3）数学に関する出版物の刊行及び情報の提供

（4）数学の普及啓発に関する事業

（5）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

U R L : <http://www.su-gaku.net/>

※「数検」「数検／数学検定」「数検／Suken」は当協会に専用使用権が認められています。

【本件に関するお問い合わせ先】

公益財団法人 日本数学検定協会 広報宣伝室

T E L : 03-5812-8342

F A X : 03-5812-8346

E-mail : kouhou@su-gaku.net



「算額1・2・3」ロゴ

【平成二十八年問題一】

古来、大仏様を代表とする坐像は立像の半分にするように造られていました。この情報をもとに、東大寺の大仏様が東海道五十三次を歩くとすると、始点となる日本橋から終点の三条大橋まで何日で行き着くことができるでしょうか？

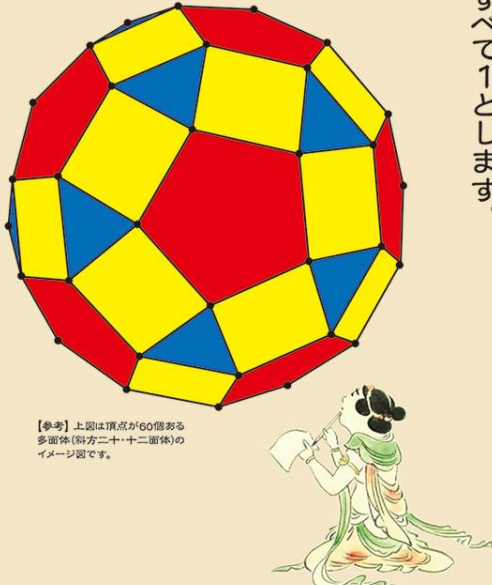
公益財団法人 日本数学検定協会



2016 年東大寺算額イメージ（問題一）


【平成二十八年 問題一】

ここ東大寺には、「華嚴五十五所絵巻」の一部が現存しています。この絵巻では善財童子が文殊菩薩の勧めで多くの指導者を訪ね、最後に普賢菩薩のもとで悟りを開く様子が描かれています。この五十五所にちなみ、多面体の頂点を一所と見立てた、五十五所の頂点がある立体があります。これを求めなさい。なお頂点と頂点を結ぶ辺の長さはすべて1とします。



【参考】上図は頂点が60個ある多面体(斜方二十十二面体)のイメージ図です。

ヒント・答えは、こちらへ
sangaku123.jp



2016 年東大寺算額イメージ（問題二）

【算額】

算額とは、神社や寺院に奉納された和算の絵馬のことで、日本独自に広まった文化だと言われています。難問が多いですが、問題が解けた喜びを神仏に感謝したり、学業成就を祈願する風習として親しまれてきました。

日本数学検定協会では、毎年1月23日を、「算額文化を広める日」と定め、問題を発表していきます。

2016 年東大寺算額イメージ（説明）



2015 年算額奉納式典の様子

